島根県水産技術センター　漁況情報　令和８年11月24日発行

トビウオ通信　(R8第10号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《令和８年度下半期浮魚長期漁況予報》

令和８年10月28日に国立研究開発法人水産研究・教育機構から「2026年度第１回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」が発表されました※1。本予報は、対馬暖流域における主要浮魚類の令和８年度下半期（令和８年11月～令和９年３月）の漁況予報について、当センターを含む水産関係研究機関等が検討を行い、取りまとめたものです。今回は、この内容をもとに日本海における主要浮魚類の漁況予報の概要と令和８年度10月までの島根県中型まき網漁業による主要浮魚類の漁況を併せてご紹介します。

※1　https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2026/fri_20261028_ukiuo-tsushima-1st.html

日本海における漁況(来遊量)予報〔令和８年度下半期(11月～翌３月)〕

	漁況予報
マアジ	前年並み
マサバ	前年並み
マイワシ	前年並み
ウルメイワシ	前年を下回る
カタクチイワシ	前年を下回る

※　ウルメイワシとカタクチイワシについては東シナ海の漁況予報を参照しています。
※　「前年」は令和７年度下半期、「平年」は過去５年間の各年下半期の平均値を示します。
※　本紙における比較は以下の規準を基に記載しています。
「並み」:80%以上～120%未満、「上回る」:120%以上、「下回る」:80%未満

令和８年度下半期の漁況予報

(１)マアジ

＜日本海＞

来　遊　量：前年・平年並み。

漁期・漁場：期間を通して、日本海西部が漁場となる。

魚　　体：16cm～24cmの１歳魚（令和７年生まれ）が主に、10cm～16cmの０歳魚（令和８年生まれ）及び24cm以上の２歳魚以上（令和６年以前生まれ）も漁獲される。

(２)マサバ

＜日本海＞

来　遊　量：前年並みで、平年を上回る。

漁期・漁場：期間を通して、日本海西部～中部の沿岸域が漁場となる。

魚　　体：25cm～28cm の 0 歳魚（令和 8 年生まれ）及び 28～32cm の 1 歳魚（令和 7 年生まれ）、に加えて、32cm 以上の 2 歳魚以上（令和 6 年以前生まれ）が漁獲される。

（3）マイワシ

＜日本海＞

来　遊　量：前年並みで、平年を上回る。

漁期・漁場：漁期前半に日本海西部、後半に日本海西部～中部の沿岸域が漁場となる。

魚　　体：12 cm～17cm の 0 歳魚（令和 8 年生まれ）に加えて、18 cm～23cm の 1 歳魚以上（令和 7 年以前生まれ）も漁獲される。

（4）ウルメイワシ

＜東シナ海＞　（日本海における予報はありません）

来　遊　量：前年・平年を下回る。

漁期・漁場：期間を通して、長崎県以南の沿岸域が漁場となる。

魚　　体：15 cm～25 cmの 0・1 歳魚（令和 8 年・7 年生まれ）が主に漁獲される。

（5）カタクチイワシ

＜東シナ海＞　（日本海における予報はありません）

来　遊　量：前年・平年を下回る。

漁期・漁場：期間を通して、長崎県以南の沿岸域が主な漁場となる。

魚　　体：5 cm～10cm の 0 歳魚（令和 8 年生まれ）が主体で、10cm 以上の 1 歳魚（令和 7 年生まれ）が混じる。

島根県中型まき網における上半期（令和 8 年 4 月～9 月）および 10 月※2の漁況

※10 月は速報値であり、上半期、下半期別のグラフでは下半期として計上しています。

今期上半期の特長として、西部ではさば類、マアジが主体でしたが、東部ではいわし類、さば類が主体となり、東西で異なる漁獲傾向となりました。

以下、魚種別に県全体の状況について、説明します。

（1）マアジ

令和 8 年度上半期のマアジの漁獲量は 1.3 千トンであり、前年同期（2.2 千トン）の 61%、平年同期（4.6 千トン）の 29%で、前年・平年を下回りました(図 1)。4 月から 10 月にかけての月別漁獲量は、全ての月で平年を下回り、低調に推移しました（図 2)。

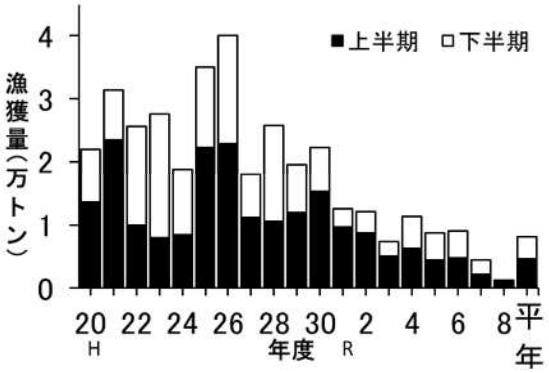

図 1. 島根県の中型まき網によるマアジの年度別漁獲量（上半期、下半期別）

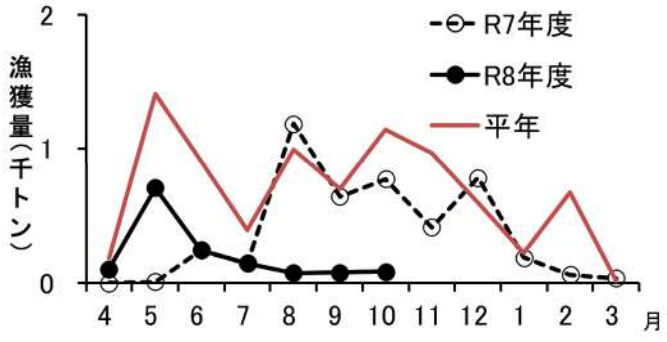

図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲量

（２）さば類

令和８年度上半期のさば類の漁獲量は 1.6 万トンであり、前年同期（1.9 万トン）の 84%、平年同期（1.3 万トン）の 118%で、前年・平年並みでした（図 3)。令和７年６月に見られたような漁獲量が１万トンを超える月はないが、４月から 10 月の月別漁獲量は、平年並み又は平年を上回りました（図 4)。

※島根県の統計上、マサバとゴマサバは分けて集計されないため、本紙ではさば類と表記しています。

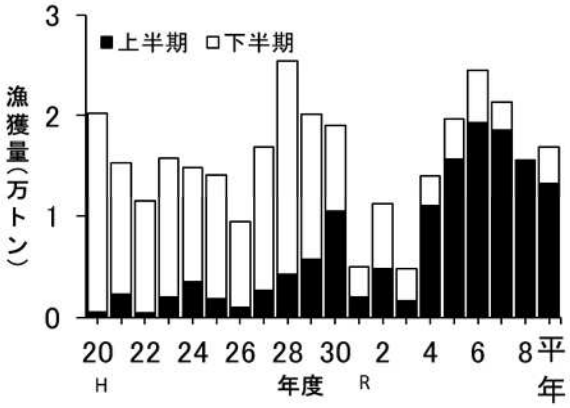

図 3. 島根県の中型まき網によるさば類の年度別漁獲量（上半期、下半期別）

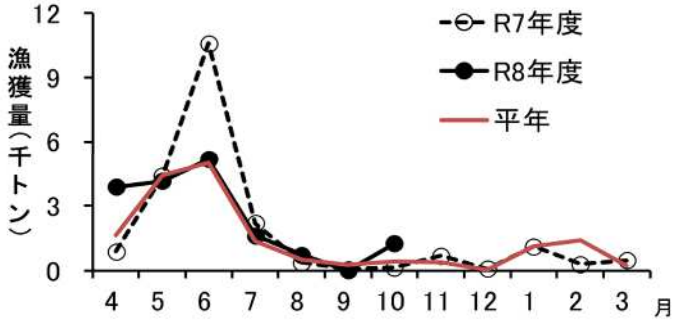

図 4. 島根県の中型まき網によるさば類の月別漁獲動量

（３）マイワシ

令和８年度上半期のマイワシの漁獲量は 3.1 万トンであり、前年同期(2.4 万トン)の 129%、平年同期（1.9 万トン）の 162%で、前年・平年を上回りました（図 5)。月別漁獲量を見ると、４月・５月は、漁獲量が９千トンを上回り、令和８年２月以降、好調な漁況が続きました。その後６月に２千トン台、７月・８月に千トンを下回ったが、９月・10 月には再び増加し、前年・平年の同月を大きく上回って推移しています（図 6)。

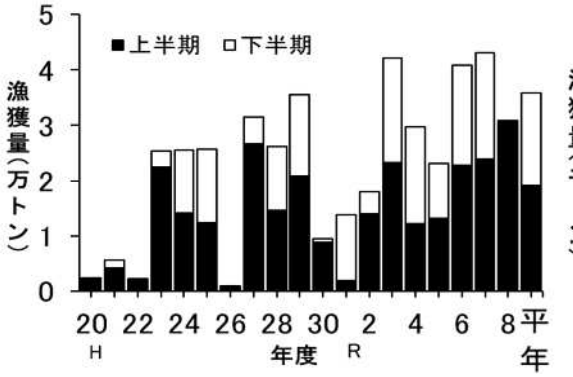

図 5. 島根県の中型まき網によるマイワシの年度別漁獲量（上半期、下半期別）

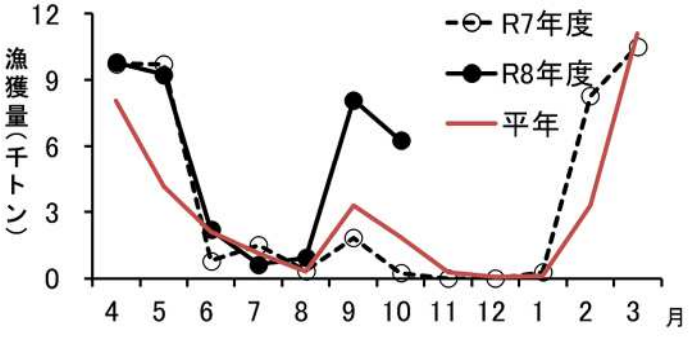

図 6. 島根県の中型まき網によるマイワシの月別漁獲量

（4）ウルメイワシ

令和 8 年度上半期のウルメイワシの漁獲量は 4.9 千トンであり、前年同期（4.1 千トン）の 120%、平年同期（8.1 千トン）の 60%で、前年を上回り、平年を下回りました（図 7）。令和 8 年 4 月の漁獲量は前年・平年を上回りましたが、5 月から 8 月までは平年を下回りました。その後、9 月・10 月の漁獲量は前年と平年の同月を上回って推移しています（図 8）。

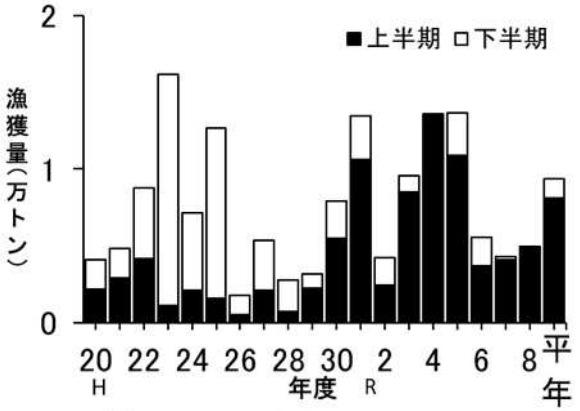

図 7. 島根県の中型まき網によるウルメイワシの年度別漁獲量（上半期、下半期別）

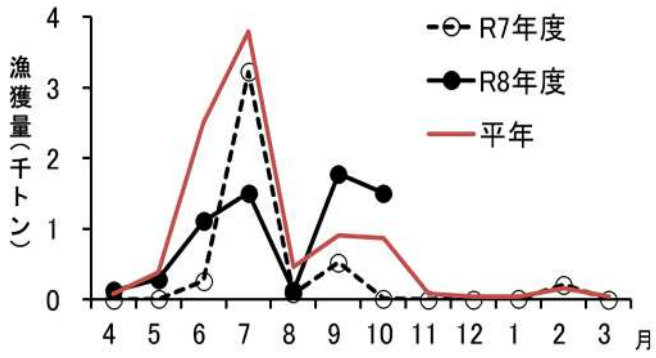

図 8. 島根県の中型まき網によるウルメイワシの月別漁獲量

（5）カタクチイワシ

令和 8 年度上半期のカタクチイワシの漁獲量は 1,757 トンであり、前年同期（16 トン）の 10,896%、平年同期（797 トン）の 220%で、前年・平年を上回りました。令和 4 年度以降、上半期・下半期の漁獲量は低調に推移しています（図 9）。月別漁獲量を見ると、4 月から 7 月までの水揚げはありませんでしたが、8 月に 133 トン、9 月に 1,624 トン、10 月に 228 トンでした。特に急増した 9 月は、前年同月（16 トン）, 平年同月（705 トン）を大きく上回りました（図 10）。

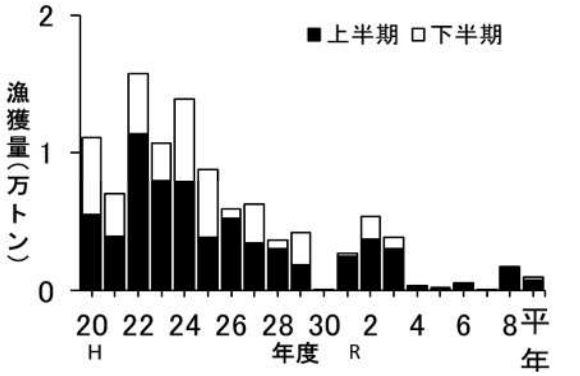

図 9. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシの年度別漁獲量（上半期、下半期別）

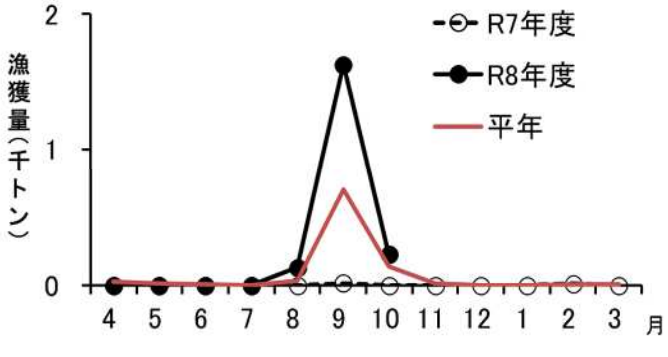

図 10. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシの月別漁獲量